

VOC自主的取組(状況報告)

○ 団体名	日本建材・住宅設備産業協会
○ 捕捉範囲	(代表的な業種) 24 金属製品製造業
■ 業種	①金属製品製造業、②パルプ・紙・紙加工品製造業、③窯業・土石製品製造業
■ 加盟率	約90% (①85%(サッシ業界内)、②89%(繊維板・パーティクルボード製造業界内)、③100%(窯業系サイディング、火山性ガラス、ロックウール保温材製造業界内))
■ 捕捉率	約85% (業界団体内の自主行動計画参加企業の出荷率)
○ 主な排出源	
■ 塗装	・サッシの塗装工程、窯業外装材の塗装工程
■ 装着	・繊維板、パーティクルボードの接着工程、ロックウール保温材のフォーミング工程、ドア等のラッピング接着工程
■ 洗浄	・ウレタン注入機の洗浄
○ 除外・すそ切りの考え方	
■ 対象企業	会員団体中、①VOCを排出していない、②他団体の自主行動計画に参加する、③自団体で実施するとした企業・団体を除く5団体を対象
■ 対象物質	PRTR対象物質のうち排出量の割合の上位を占める物質を対象団体各々が選定した

○ 排出状況 (単位:トン)

	【H12年度】	【H17年度】	【H22年度】	【H26年度】	【H27年度】	【H28年度】	【H29年度】	【H30年度】	【R1年度】	【R2年度】	【R3年度】
■ 全国											
使用量 ^{※1}	10,109	7,639	3,876	2,424	2,137	1,783	1,734	1,526	1,310	1,029	1,142
排出量	8,031	6,059	2,208	1,842	1,548	1,293	1,174	993	916	657	691
(増減率 ^{※2})	-	(▲25%)	(▲73%)	(▲77%)	(▲81%)	(▲84%)	(▲85%)	(▲88%)	(▲89%)	(▲92%)	(▲91%)
うち法規制対象施設	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	-
(増減率 ^{※2})	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
独自指標	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(増減率 ^{※2})	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
参加企業数	-	-	-	35	33	33	33	33	32	32	32
(参考)地域別排出量											
■ 対策地域計	3,682	3,283	1,586	967	771	532	449	424	436	357	428
(対全国比)	(46%)	(54%)	(72%)	(52%)	(50%)	(41%)	(38%)	(43%)	(48%)	(54%)	(62%)
関東地域 ^{※3}	1,069	695	1,181	433	417	361	255	229	232	172	209
関西地域 ^{※4}	194	197	125	134	115	128	158	155	166	151	182
中部地域 ^{※5}	2,419	2,391	280	400	239	43	36	40	38	34	37

※1 使用量とは、燃料として使用したものを除く。

※2 増減率(%) = $\frac{\text{当該年度の排出量} - \text{12年度の排出量}}{\text{12年度の排出量}}$

※3 関東地域: 東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県

※4 関西地域: 大阪府、兵庫県

※5 中部地域: 愛知県、三重県

(注) 物質別の排出量を推計している場合は、別紙に、物質別の排出量を記入してください。

■ 使用量の推計方法

VOC使用量は、各業界各社の購入実績や施設ごとの使用実績より算出した。

■ 排出量の推計方法

各業界毎に算出方法が異なるため、過去の自主行動計画報告書を参照してください。

■ 参加企業数の増減理由

○ 排出抑制に貢献する対策等

■ 対策及びその効果、コスト

(作業方法の改善等)

- ・接着施設の温度管理の徹底
- ・吐出器や配管の改善による歩留まり向上
- ・キャッチャー剤の導入、改良および使用方法の改良

(原材料の転換・削減)

- ・溶剤系塗料から水系塗料への切換え
- ・塗料の塗着、塗布の向上による塗料使用原単位の低減化
- ・洗浄剤の代替促進や使用量削減
- ・ラッピング用接着剤のホットメルト等への切換えおよびジクロロメタンを含まないものに代替化
- ・接着力向上による使用量の削減
- ・排出抑制対象物質の含有率が低いシーリング材への代替化

(設備導入・改良等)

- ・塗装効率の改善(塗装ライン設備更新)
- ・水性化設備改造による水系塗料への切り替え
- ・洗淨シンナー削減装置導入
- ・VOC除去装置の導入
- ・排ガス触媒性能の安定運用

(取引先企業、消費者等への周知)

- ・引き続きVOC自主表示制度を活用して各企業、取引先への説明会の開催、周知等による意識の向上と更なる削減に取り組んでいる。
- ・平成12年に制定した工業会の環境宣言を基に、SDGsへの貢献内容をまとめたリーフレットを作成し、VOC削減への取り組み説明を更に進めている。(日本繊維板工業会)

(その他の対策)

- ・F☆☆☆☆製品の生産比率を高める

■ 自己評価

(取組の目指すべき方向性)

- ・今まで取り組んできた内容を継続実施するほか、設備改善の際には、排出状況の改善にも資する様配慮するなど努力する。
- ・今後の目標値として、少なくとも平成22年度比で悪化しないよう、取り組んで行く。

(自己評価)

令和3年度の排出量(691トン)は平成22年度排出量(2208トン)に対して69%減だったが、前年度(70%減)と比べると微増となった。使用量および排出量の削減の取り組みを継続したものの、新型コロナウイルスの影響による一時的な生産減から回復した影響が大きいと捉えている。一方で、塗料の塗着、塗布の向上による塗料使用原単位の低減化や水性化設備改造による水系塗料への切り替え、塗装設備の塗装効率改善や設備の燃料転換、低VOC材料への代替化、建材のF☆☆☆☆生産比率向上などの継続的な取り組みと洗淨シンナー削減装置導入や洗淨回数削減などの新しい改善により、一定の排出量抑制効果が得られたと考えている。

○ その他

(日本窯業外装材協会)

・溶剤塗料から水性塗料への切替により使用量・排出量は小さくなってきた。今後も、設備工事を伴う切替を含め、取り組みを継続する。令和3年度は、溶剤塗料を使用する製品の生産量が増加したため使用量・排出量が増加した。

(日本サッシ協会)

・洗淨用ジクロロメタンは代替化完了。トルエン、キシレンおよびエチルベンゼンは、洗淨用シンナー回収により排出量を削減。対象物質の含有率が低い化学物質への切り替えを随時進めている。令和3年度の排出実績は令和2年度と比較し原単位で2%減と改善されたが、生産量増加により総排出量は増加した。

(日本繊維板工業会)

・VOC排出抑制に対する会員の意識が高く、各社それぞれの方策に沿って低ホルム化を行い、令和3年のF☆☆☆☆生産比率は97.1%(前年96.4%)と向上した。また4VOC自主表示制度を運用しており、登録内容の追加や更新が活発に行われている。

(ロックウール工業会)

・ロックウール繊維の成形品を保つために使用されるホルムアルデヒド含有のフェノール樹脂をノンホルムアルデヒド樹脂に変更することを引き続き検討している。

※法的対象施設として該当するものがないため、記載なし。